

統計以来最低の402・3万ト

東北6県 23年度アス合材製造量

日本アスファルト合材協会（日合協）東北連合会（野口典秀会長）がまとめた2023年度の製造量は東北6県で402・3万トとなり、前年度と比較して11・2%減少した。

第3四半期（23年4～12月）までの集計時点では年度ベースの400万ト割れの懸念もあったが踏みとどまった。ただ1980年に統計を開始してから最低の

製造量で、プラントの稼働率は全国平均大きく下回る31%と低迷。需給バランスが崩れた状況な上、原材料の高止まりや運搬経費の上昇などもあり、プラントの経営は苦境に直面している。状況打破には「さらなる合材単価への転嫁が必要」（日合協東北連合会）と業界の窮状を訴えている。

製造量の県別内訳は、青森49・8万ト（14・1%減）、

岩手51・9万ト（5・5%減）、宮城98・3万ト（13・1%減）、秋田42・3万ト（12・8%減）、山形53・5万ト（11・1%増）、福島106・5万ト（15・3%減）。

地区別の製造・出荷動向を見ると、青森県は東日本高速道路会社関連の修繕工事で出荷が増えた東青地区が改善。津軽、上・下北、三八の3地区は落ち込んだ。岩手県は県央・東北地区以外で厳しい状況が続く。宮古・釜石地区では大幅な減となった。宮城県は石巻・気仙沼地区が大きく減らした。秋田県は鹿角・北秋田・

山本、秋田・由利、仙北・平鹿・雄勝の3地区で減少。山形県は置賜地区梨郷道路など下期に高規格道路の開通が相次ぎ前年同期並みに回復した。福島県は会津地区などで県工事や国の堤防舗装の縮小が影響し減少。浜通りは前年と同水準だった。

23年度には合材工場の統廃合で管内2工場が閉所。工場数の減少は地域の災害対応への影響も懸念される。各県で道路損傷が進行する中、「早期の予算化が必要」（日合協東北連合会）になるだろう。

